

■第13回大阪府福祉のまちづくり審議会 意見概要

番号	ご意見
議題（１）「大阪府福祉のまちづくり条例ガイドライン」の改訂及び周知について	
1	条例は、義務対象となった時にしっかり調べる人が多いという印象。また、義務でない と金銭面や広さ等様々な条件をクリアしながら作ることになるため、難しい部分もある のが現実だと感じる。
議題（２）建築物の更なるバリアフリー化に向けて	
2	店舗出入口における段差の解消について、物販店舗、飲食店舗を事前協議の対象として ほしい。また、店の敷地とその敷地外の道路の段差があるといった課題も検討してほし い。
3	大人用介護ベッドの有無を気にされる方が増えてきており、設置数が足りていない。ま た、トイレの広さの兼ね合いもあるが、身長が高い人のためにも、大きなベッドの設置 を検討してほしい。
4	2階建てコンビニについては、条例の解説の記載内容を改訂し、少しずつ少なくなるだ ろうとは思いますが、それでも減らない場合は、基準の見直しという形で検討してほしい。
5	バリアフリートイレの整備数について、国でも検討が進められているが、使う方も多く なっている中で今の数で足りるのか。施設の面積など制約があるとは思いますが、要望とし て挙げたい。
6	劇場等の客席について、座席数に比例する形で一定の車椅子使用者用客席の整備をして ほしい。また、配置についても1箇所に固めるのではなく、様々な場所で見られるること や、サイトラインについても、周りの人が立ち上がった場合に車いす使用者は交れない ので、検討してほしい。
7	万博というのは半年間という一過性のイベントではあるが、だからこそしっかり作られ ている部分もある。良いところや参考にすべきところを大阪の街に生かしていくことは 非常に大切である。
8	来年度行う調査についてはアンケート調査が基本になると思われるが、当事者が実際に 街に出て改めて確認するということが、数字だけでなく肌で感じることができ、改善点 を出すきっかけにもなるため、少しでもそういった場を作ってほしい。
9	小規模店舗を対象に段差の有無を見直されるとのことだが、出店されている事業者側の 生活経済も大事なので、すでに小規模店舗が義務化されている兵庫県や鳥取県の事例も 参考にしながら、経済合理性についてしっかりと確認してほしい。
10	映画館では、大きいシアターは座席数300程度、少ないと4～50程度のところもあり、い ずれも最低2席ぐらゐは車いす使用者用客席を設けているのが現状。既存の施設で車い す使用者用客席を増やすのは難しいと感じる。また、避難誘導の関係で、段差なくアク セスできる場所に設置しているという状況である。
11	小規模店舗では様々な制約からバリアフリー化がなかなか難しい面もあるが、人的な支 援があれば利用できるという面もある。そういったバリアフリーに関する意識を高める ことの重要性を忘れがちなので、意識喚起していくことが必要である。調布市では一般 市民のサポートに関する意識啓発パンフレットを作成し、店舗などにも積極的に配布し ている。

12	銀行では、店舗の面積が小さいところが多く、バリアフリーの対策を十分に取れている店舗は少ない印象だが、サービス業であるため、ソフト面の対策であれば取り組みやすい部分もあるので、バリアフリーに対する理解醸成を進めていくというのも重要な策になると思う。
議題（３）その他報告事項	
13	アメリカの鉄鋼メーカーの事例では、生産性を優先しているところには工場内の事故で生産がストップすることが多く、パラダイムをひっくり返してセーフティファーストとすると、かえって生産性が高まり、それが世界に広まった。同様に、ユニバーサルデザインを採用することが利益相反ではなく利益につながるものであると事業者のパラダイムを変えてあげることが必要ではないか。
14	ホテルや旅館のバリアフリー情報の公表について、新しくできたホテルでは公表されているが、全体で見ると宿泊可能かどうかの情報が拾えないことが多い。意識啓発をすることによって、ホテル事業者も「情報公表をしなければいけない」ではなく、公表することで仕事の大切さとか社会へ貢献していることであるとか、そういう意識を持つように、大阪府からも働きかけてほしい。
15	大阪府では全国に先駆けて福祉のまちづくりに取り組んできて、ガイドラインなども作成し、やっとここまで来たかと思うこともあるが、まだまだスパイラルアップしながら進めていく必要がある。
16	鉄道間の乗り継ぎについて、点字ブロックやエレベーターなどが整備され移動は便利になったが、鉄道事業者間の乗り継ぎに関するサービスが定まっていない。改札の外に出たら案内はできないと断られることがあったが、交通ルールから言うと、自社から次のところへ渡すことで、その人が安全に移動できるという概念を持つこともまちづくりにつながると意識してほしい。